

<小難しい学芸員のやさしい小嘘>

大阪府の外来哺乳類相の変遷

2020年3月1日からはじまるはずだった特別展「知るからはじめる外来生物」では、分厚い解説書を作りました。大阪府の外来哺乳類についてもいっぱい書いたのですが、十分に書き切れなかったのが、大阪府の哺乳類相がどう変わってきたかという部分です。表1の年表を見ながら紹介しましょう。

大阪府の外来哺乳類第1世代は、イヌとイエネコと家ネズミ3種です。大先輩すぎて、最初に持ち込まれたのがいつか定かではありません。この5種は、近年も、イエネコはペットとして、家ネズミ類は荷物にまぎれて、繰り返し持ち込まれていると考えられます（野生のイヌは見かけなくなりましたが）。

1930年代には、チョウセンイタチが市街地に定着しました。それまでは大阪市の市街地にはニホンイタチが生息していたそうなのですが、チョウセンイタチが持ち込まれて以降は、市街地のイタチは、チョウセンイタチに入れ替わりました。

1970年代には、食肉用に飼育されていたイノブタが逃げて山地に定着しはじめたと言われます。また、大阪城公園にタイワンリスが放されましたが、2000年頃にいなくなります。

2000年頃、大きなターニングポイントを迎えます。この頃に、アライグマ、ハクビシン、ヌートリアの外来哺乳類3種が、相次いで大阪府に定着したのです。3種とも、あっという間に山手や淀川水系に拡がりました。その後、2014年頃以降、アライグマとハクビシンは市街地へ、ヌートリアは大阪府南部へと、分布をさらに拡大しているところです。

一旦いなくなったタイワンリスは、2000年代以降、今度は山林での確認例が出てきています。ひそかに山林に拡がっている可能性が危惧されます。2000年以降、山手でイノブタが増加し、山間部でチョウセンイタチが記録されるようになっています。

今までに大阪府に定着した外来哺乳類は11種です。その特徴の一つは、イノブタ以外は、山林・山間部にも、平野の市街地にも生息していることです。大阪市の市街地の哺乳類は、アブラコウモリとタヌキとヒトを除けば、すべて外来生物です。現在、市街地で増えつつあるアライグマは、塀を乗り越えて庭へ、さらに人家の中にも入ることがあります。噛ま

表1：大阪府外来哺乳類年表。

年代	出来事
江戸時代以前 (年代不明)	イヌ、イエネコ、ドブネズミ、クマネズミ、ハッカネズミが持ち込まれる。
1930年頃	阪神地域でチョウセンイタチが野生化。
1935年頃	大阪府でチョウセンイタチの捕獲記録。
1973年	大阪城公園にタイワンリスが放される。
1975~1985年頃	大阪府でイノブタが野生化したとされる。
1999年	大阪城公園でタイワンリスの記録（確実な記録はこれが最後）。
1999年	豊能町でアライグマが見つかる。
2000年	箕面市でハクビシンが初めて見つかる。
2000年	淀川でヌートリアが見つかり、その後、淀川水系に拡がる。
2006年	市街地を除く大阪府全域に既にアライグマが生息。
2007年	枚方市でタイワンリスが見つかる。
2013年	能勢町三草山でタイワンリスの記録。
2014年	長居公園（大阪市東住吉区）でアライグマを確認。以降、市街地での記録が増加。
2014年頃	大和川水系でヌートリアが目立ち始める。2019年には、奈良盆地にまで分布拡大。
2015年頃	市街地でハクビシンが記録されるようになる。

れると危険なので、出会っても手を出さない事をオススメします。

引用文献

- 今泉忠明(1986) イタチとテン 森を駆けめぐる万能選手。自由国民社、東京。
- 浦野信孝・西川喜朗・藤田俊児・松尾淳一(2000) 大阪府北部でハクビシンを発見。Nature Study 46(11): 10。
- 大阪府外来生物目録(鳥類・哺乳類)作成検討部会(2008) 大阪府の外来生物<哺乳類・鳥類>外来生物って知っていますか? 大阪府, 大阪, 12pp.
- 小寺祐二・神崎伸夫(2001) イノシシ, イノブタ飼育とそれらの野生化の現状。野生生物保護6: 67-78。
- 田中光彦(1980) ナチュラリストレポート タイワンリスの生態。都市と自然 49: 4-5。
- 野生動物保護管理事務所(2007) 平成18年度ヌートリア生息状況調査報告書。大阪府, 大阪。

<わだ たけし: 博物館学芸員>